

平成26年度 第2回
エコチル調査企画評価委員会

平成27年3月6日(金)

平成26年度第2回 エコチル調査企画評価委員会

平成27年3月6日(金) 14:00～16:06

弘済会館 4階 萩

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) エコチル調査の実施状況について
 - (2) エコチル調査の第2次中間評価について
 - (3) その他
3. 閉 会

配 付 資 料

- | | |
|-------|--|
| 資料1 | 平成26年度エコチル調査企画評価委員会委員名簿 |
| 資料2 | 平成26年度エコチル調査企画評価委員会開催要綱 |
| 資料3 | エコチル調査の進捗状況 |
| 資料4 | 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)第2次中間評価書
(案) |
| 参考資料1 | 研究計画書(第1.43版) |
| 参考資料2 | 詳細調査研究計画書(第1.01版) |
| 参考資料3 | エコチル調査第4回シンポジウム資料 |
| 参考資料4 | エコチル調査に係る平成27年度予算(案) |
| 参考資料5 | 平成26年度エコチル調査の第2次中間評価に関する実施要領 |
| 参考資料6 | 平成25年度エコチル調査の年次評価書 |

午後2時00分 開会

永井室長補佐 本日は、お忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから平成26年度第2回エコチル調査企画評価委員会を開催いたします。

まず先生方にお知らせです。

本日の会議は、あらかじめ傍聴申し込みをいただいた皆様に公開されています。また、カメラによる撮影は会議の冒頭部分のみに限らせていただいておりますので、よろしく願いいたします。

本日、北島部長、針田室長、ともに参加の予定でしたが、国会業務が長引いておりまして、遅刻してまいります。申し訳ございません。

続きまして、本日お配りしました資料について確認いたします。

配付資料についてですが、資料は1～4まで、参考資料は1～6までございます。資料がそろっていますことをご確認いただき、過不足などございましたら、事務局までお申し出ください。

続きまして、本委員会の委員をご紹介します。

本日衛藤委員、鈴木委員は欠席のご連絡をいただいております。石川委員は遅れての参加というご連絡をいただいております。

では、出席委員のご紹介をさせていただきます。

井口委員です。

稲垣委員です。

庄野委員です。

田中委員です。

遠山委員です。

内山座長です。

中下委員です。

藤村委員です。

松平委員です。

松谷委員です。

麦島委員です。

村田委員です。

また、オブザーバーとして、ご出席いただいております皆様のご紹介をさせていただきます。

文部科学省ライフサイエンス課、久保田様です。

内閣官房健康・医療戦略室、浅野様です。

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課、福田様です。

厚生労働省医政局総務課、井筒様です。

同じく厚生労働省医政局総務課、北澤様です。

それでは、座長の内山先生、以後の議事進行をよろしく願いいたします。

内山座長 それでは、第2回のエコチル調査企画評価委員会を始めさせていただきます。

今回は、エコチル調査の実施状況についてということと、前回の委員会でワーキンググループを立ち上げましたが、今年は中間評価の時期ですので、第2次中間評価について取りまとめいただいた分をご審議いただきたいと思います。

それでは、早速議事(1)から始めたいと思いますので、エコチル調査の実施状況について、事務局からご説明をお願いいたします。

永井室長補佐 9月に開催いたしました本委員会の第1回企画評価委員会以降のエコチル調査の進捗状況について、ご説明いたします。

まず、コアセンターから、資料3に沿いまして、エコチル調査の進捗状況についてご説明いたします。

新田コアセンター長代行 コアセンターのセンター長代行しております新田でございます。

私のほうから、前回の9月以降の進捗について、概況をご説明させていただきます。

資料3、今日も報告内容をまとめておりますけれども、めくっていただきまして、リクルート等の進捗状況ということで、母親のリクルートは昨年度末に終了して、その後、父親のリクルートにつきましては、子どもさんの出産の1カ月健診までの間、同様の施設でのリクルートを中心ということで、その後も一部追加されてきております。

5万2,000弱のお父さんのリクルートをいただきました。それから、子どもさんの登録者数が、1月末現在の資料でお示しております9万9,357、その後、やや遅れているものが登録されて、現在約9万9,600ほどということで、かなりもう最終の数字かなと。最後の出産は昨年12月という報告を受けておりますけれども、この数字はシステムへの登録数ということですので、若干作業上の遅れが生じておりました。

それから質問票の登録者数、これにつきましては、また次のページのところでご説明させていただきます。

生体試料の回収数に関しましても、出産後1カ月まで子どもさんの毛髪等を収集するという

ことですが、これも既に完了しております。

ただ、数字につきましては、まだ全体のデータのクリーニングと称します確認作業の途中でございますので、一部、数字は最終確定数とずれる可能性がございますので、その点ご理解いただければというふうに思います。

それから次のページ、質問票調査の実施状況ということで、C-6mというのは6カ月、1yは1歳児、半年ごとに実施しておりますので、現在この表は3歳までのデータを示しておりますけれども、既に3.5歳、3歳6カ月の質問票調査も開始されたということです。まだ数が少ないものですから、ここの表には含めておりませんが、送付後6カ月以上が経過した者の回収状況、次のグラフでご覧いただきますように、送付から6カ月経過しますと、回収の状況はほぼフラットに達するというので、6カ月を目処に回収状況、その後も一部かなり遅れて回収されるのがありますけれども、率としてははずかということですので、現状はこの6カ月以上経過した者の回収状況を、一つの指標として我々は考えております。

4ページにグラフを示しております。一番上に位置するのが6カ月質問票ということで、一番回収率としては高い状況でございます。横軸の数字はそれぞれの発送の時期ということになります。順次少しずつ後で評価の対象にもなっておりますけれども、年齢が進むにつれてやや低下傾向が見てとれます。これは既にご報告したとおりでございます。

それから今年度につきましては、生体試料の分析も開始しております、その後その進捗がありました。本年度中に、もう既に分析自体は終わっておりますが、まだ精度管理上の確認ができておりませんので、数字をお示しすることはできませんけれども、約2万検体の母親の血液中の金属類の測定が年度内に完了、それから1万2,000検体の尿中のコチニン及び8-OHdGの分析が完了という予定になっております。それから今年度におきましては、残留性有機化学物質（POPs類）の分析項目の選定・優先順位付けの検討をしております。これはPOPsはたくさんの物質がありますので、検出限界以下のものが多数を占めるものと、その振り分けを今年度中に行いたいということで進めているところでございます。

それから収集されましたデータ、基本的には分析値ではなくて質問票等に基づく収集データについては、第1次一部固定データにつきましては、初年度1年分のデータということで、1万件固定して、この1万件に基づく論文作成も、一部着手したところでございますが、第2次の一部固定データということで、ここに書きましたように約6万件のデータ、2013年9月まで出産済のデータについてデータのクリーニング作業を行いまして、今年度3月中には固定予定です。完了後、各ユニットセンター、コアセンター、メディカルセンターを含めて関係者に配布して、

その利用に供することができる状況になるということでございます。

最後のページ、このエコチル調査におきましては、10万組の親子を対象とした全体調査に加えまして、約5,000人を対象にした詳細調査を当初から計画しておりました。その計画内容を1年ほどかけて議論をいたしまして、昨年度末に、その計画をお示したところですが、その計画に従って準備を進めまして、ちょうど10月からリクルートを開始、それから11月からは居住環境、生活環境についての訪問調査、我々は環境測定と呼んでおりますが、その調査を実施したところでございます。3カ月ごとに対象候補者を選び、まず電話で参加者のお宅にお声かけをして、調査内容を説明して、基本的にご了解をいただいた上で調査開始という段取りにしております。

2013年4月から6月まで、3カ月間の出生児から対象者、候補者を選びまして、お声かけをして、その調査については現在実施中でございます。お声かけをした対象者のうちの全体では約半分、50%の方に同意を得て、詳細調査の実施ということになっております。その後、2013年7月から9月までの出生児、3カ月分につきましては、今お声かけ、リクルートを実施中で、順次訪問調査に着手するという予定になっております。

それから同じ対象者につきましては、4月からは2歳になりますので、精神神経発達検査、医学的検査を開始する予定になっておりまして、その準備の状況ですが、さまざまなスタッフ、それから担当医師を含めて研修を複数行っております。これにつきましてはメディカルサポートセンターを中心に進めていただいて、もう一度来週にも最後のスタッフの研修が残っておりますけれども、今のところ準備はしっかり整えて、4月からのこの詳細調査の発達検査、医学的検査に臨めるというふうに考えているところです。

以上でございます。

針田室長 遅れてすみません。リスク評価室の針田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

引き続きまして、担当のほうより、参考3、4を説明させていただきます。

永井室長補佐 それでは参考資料3をお手元にご準備をお願いいたします。

ピンク色の紙ですが、こちら1月25日に開催いたしました第4回エコチル調査シンポジウムのパンフレット、チラシになっております。

今回のシンポジウムは日本科学未来館というところで行いました。今回初めての取組といたしまして、プログラムにも書いておりますようにファシリテーターという科学者と技術者と市民とをつなげる役割ということをふだんされておられます方に協力いただきました。この方を

お呼びいたしまして、川本先生、大矢先生、山縣先生の専門家によるお話をより詳しく、よりわかりやすく国民に伝えようということをコンセプトに、今回このシンポジウムを実施いたしました。

来場者数ですが、参加者あわせて全員で209名参加していただきました。

続きまして、参考資料4をお手元に準備をお願いいたします。

こちらは、エコチル調査に係る平成27年度予算（案）ということで出させていただいております。現在国会で審議中ですが、約45億円を要求しているところです。平成26年度補正といたしまして、こちらは12億円、この内訳ですが、化学物質分析の加速化といたしまして約10億円、エコチル調査で生体試料をいただいておりますが、これの長期保管するための施設の整備費用として約2億円を要求しております。

平成27年度におきましては、追跡調査を本格実施するとともに、平成26年度から開始している全国調査の10万人から抽出された5,000人程度を対象として実施いたします詳細調査を本格化するというにしております。

参考資料3、参考資料4については以上です。

内山座長 ありがとうございます。

ただいまエコチル調査の実施状況についてご説明ありましたけれども、よろしいでしょうか。ご質問、ご意見ございましたら。どうぞ。

稲垣委員 国立精神神経医療研究センターの稲垣でございます。

資料3のスライドのほうで示していただいた4枚目のグラフなんですけれども、細かいところで誠に恐縮ですけれども、6カ月のときの質問票の回収状況というのが、1回上がって、それから下がって、また上がっていくというようなグラフになっているように見えるんですけれども、これは意味としてはどういう意味なんでしょうか。

新田コアセンター長代行 このグラフは累積ということではなくて、下の送付時期ごとの完了率ということでございます。このところ下がっているのが、2014年10月ごろに送った分が、少し完了率で言うと、その前後よりも低かったということで、これにつきましては、その前後での何かイベントとか、コアセンターでも検討いたしましたけれども、現状では理由として明確なものを捉まえ切れていないということでございます。

稲垣委員 グラフの見方として、ある程度のところでフラットになるというのはわかるんですけど、累積ではないから、その時、その時の値がプロットされているという、そういう。

新田コアセンター長代行 極端に申しますと、一番右端、2012年1月というのは、その時期

に送ったものということで、6カ月児へ送ったものが、もう既に3年経過しているということで、ほぼマックスになっておりますけども、送ってからの期間が、右に行けば行くほど長い期間、送付から時間が経ているということでございます。

稲垣委員 わかりました。

新田コアセンター長代行 折れ線でお示ししているので、累積というように、若干異なる点が明確になっておりませんが、そのようなグラフでございますので、ご理解いただければと思います。

稲垣委員 要するに右から左を見ていくということなんですね。どちらかという、左から右ではなくて。

新田コアセンター長代行 はい。

稲垣委員 わかりました。

内山座長 よろしいでしょうか、そのほかに。

遠山委員 細かいことなんですが、エコチル調査の進捗状況、資料3の2ページの質問票と登録者数の下のM-T1、T2、これはどういうことなのか、簡単でいいですから説明してください。

新田コアセンター長代行 Mはお母さんのMで、マザーなんですけども、T1は妊娠期の時期のそれぞれの調査のT1の時期、T2は、実際にはT2、T3、両方あわせてです。それから、Drのドクターというのは、これは診察記録票と呼んでおりますが、カルテからの転記情報、T1の時期の転記情報、それから0mは出産時というので0mという、私どもで慣れて使っている記号をそのまま表記して、説明が省略されております。申し訳ございません。

内山座長 そのほかに、いかがでしょうか。

稲垣委員 何度もすみません。

詳細調査の2013年4月からの出生からの方々が、そろそろ1歳半から2歳ということで、スタートを切るところだということでは理解できたんですけど、これはどのような分布の、リクルートがどういうふうになされて、どういう数値が出てきそうなのか、そういうのはまだ明らかではないということなんですか。

リクルートが開始されたという事実はわかったんですけど、どういうふうという意味は、全国で十数カ所において行われているわけですけども、どういう人数配分でされているのかとか、そういう意味なんですか。

新田コアセンター長代行 すみません、申し訳ございません。

その辺説明を省略してしまっておりますけれども、各ユニット、15のユニットはございます

が、このユニットのリクルート者数をお示ししていますが、結果的にリクルートした数に案分で5,000に振り分けているということでございます。

ですから各ユニットごとにリクルート者数の5%の数を目標として、詳細調査の対象者数になると。今順番にやっておりますので、3カ月ごとにその数もさらに案分した数を目標にリクルートをして、また次の3カ月分のリクルート者数ということで、最終的に5,000になるように数を調整しながら進めていくというリクルートの方針でございます。

内山座長 実際には、詳細調査の対象者はランダムに5%を選んでやるのか、それとも何かリクルートのときにある程度選択しているのですか。

新田コアセンター長代行 前回のときにご報告いたしましたけれども、今回の詳細調査の場合には、家庭訪問、それから医学的検査というような客観的な検査の対象ということになりますので、全体調査におきまして、この進捗状況の2ページにお示ししているような各時期の質問票の調査、診察記録票が全て回収されて、情報がそろっている方の中から無作為に候補者を選んだということになります。

内山座長 先ほどは同意率が50%と言われましたが。

新田コアセンター長代行 その中から候補者を。

内山座長 少し多目に選んでいるのですか。

新田コアセンター長代行 多目に選んでお声かけしてということです。

内山座長 その数になるまでリクルートしたということですね。

新田コアセンター長代行 はい。ですから、リスト上は無作為にこのリストを並べて、上から順番に取っていくということで、無作為化しているということでございます。

内山座長 ほかに、どうぞ。

遠山委員 前回のときも伺ったかもしれませんが、この後、詳細調査で神経発達とか行動検査をするときに、それを検査をする側のいろいろな技術的な意味での標準化というのが必要だと思うんですが、ご説明になるのなら、それはそのときで構わないんですが、具体的に何人ぐらいの人を日本全体で担当者として選んで、標準化というのはどんな具合でうまくやっているのだらうと思いますが、どういうふうになっているのかということをお教えください。

新田コアセンター長代行 別紙のほうで研修として、一括でご説明させていただきましたけれども、新版K式発達検査の初級研修、臨床研修と、二つの項目を入れております。これは全体、新版K式の検査者の方に集まっていただいて、研修を行う。その場合に新版K式はそれぞれの地域でさまざまな場面で、発達の遅れている方をスクリーニングするというような目的で使

われていることが多いかと思えますけれども、エコチル調査の場合には、そのスコア自体がアウトカムになるということで、非常に厳密な標準化が、ご指摘のように必要だということで、手順等もエコチルのために、さらにもともの新版K式のマニュアルに加えて、エコチルのために標準化の手順をお示ししています。

それから必ずしも新版K式の経験者だけで、このエコチル全国の検査が実施できないということもありますので、その中で臨床研究ということを含めて、この中にはビデオ研修、それから実地の研修を含めております。そのやり方も標準化をして、最終的には認定試験をエコチルの中で標準化、きちっとできた上で今後4月以降、検査が進められるかどうかという、認定試験はまだこれから途中なんですけれども、それも1次、2次というふうなことで、その手順を決めて進めております。

内山座長 そのほかに、いかがでしょうか。

稲垣委員 細かい点で本当に申し訳ないですけれども、「リクルート」という言葉なんですけど、一番最初にいわゆる普通のお母さん方にリクルートという言葉があったと思うんですけど、そしてさらに今詳細の方のリクルートというお話があって、つまり「リクルート」という言葉で誤解、あるいはよくわからなくなってしまうことがあるので、できれば名前を例えば詳細リクルートとか、あるいは何がしかにさせていただいて、使い分けをしていただきたいというふうに思うんです。そうすると少し理解が深まる、あるいは理解しやすくなると思います。なので少しご検討いただければと思います。

新田コアセンター長代行 ありがとうございます。確かにご指摘のように、リクルートという言葉で全体調査だったり詳細調査だったり、いろいろな場面で少しこちらでも使い分けしているという言い方ができますけれども、具体的に何を指し示しているのか、ご指摘のとおり、わかりにくくなっていたと思いますので、用語について整理をさせていただきたいというふうに思います。

内山座長 ありがとうございます。そのほかにいかがでしょうか。

藤村委員 藤村です。

資料3の6ページの詳細調査の準備状況のところ、特に先ほどご質問があった追加の質問なんですけど、つまり発達検査、初期研修、臨床研修を準備中だと伺いました。非常に大事だと思うんですけど、さっき言われた詳細リクルートは対象何人ぐらいを予定されていて、それに当たる検査員は何人ぐらい用意していて、そして、これから特に私の質問なんですけど、その方々は、普段はそういう関係の仕事をしている人が合間にこの仕事に参加されるのか、専任でこの間を

されるのか、そういう部分のご説明がないとよくわからないんです。

新田コアセンター長代行 ありがとうございます。

実は地域によって、この新版K式の発達検査ができる方のリソースにかなり地域で差がございます。

まずお答えとしては、地域によってその状況が異なるということでございます。

ですから、ある程度検査者の人的なリソースがあるところは、ユニットで、このために雇用するということがございます。その余裕がないところは、いろいろな状況で現在実施しているところの合間、間に、エコチルの検査を入れていただくとか、さまざまな工夫をしながら実施するということで、人数に対して明確にお答えが先ほどできなかったのは、地域によってその状況が異なるものですから、最終的にスタートしてみても、実施状況を見ながらということで、その地域のリソースにあわせて、専任の場合もありますし、兼任といいますが、そういう場合もあり得るということでございます。

ただ、いずれにしても、この検査、研修を受けてこちらの中で認定試験、例えば、まずスタートはビデオで子どもさんの検査をしているところを見て点数をつけていただいて、それが一致するかどうかからスタートしておりますけれども、そういうことが、検査をする方は、現状での勤務状態とは関わりなく、全部一律に我々は認定させていただくという手順を進めております。今、手元に正確なその認定試験の受講者数の資料を持ってきておりませんでしたので、後ほどご報告させていただければというふうに思います。

内山座長 よろしくお願いいいたします。特に詳細調査で、発達検査は全国どこでやっても同じレベルでということをやっていると思っておりますので、その点を確認してご報告いただければと思います。そのほかにもございますでしょうか。

松平委員 日本小児科医会の松平と申します。

資料3のところ、詳細検査の中で、2歳児の発達検査がありますけれども、我々小児科医ではあまり2歳児の発達検査は特異的な項目がないように思えるんですけども、もしここで2歳児の発達検査の中で特徴的な内容がありましたら、教えていただきたいんですけども。

石塚メディカルサポートセンター研究員 2歳児の発達検査では、新版K式が日本ではよく用いられていると思います。

新版K式のほうは、実は1歳未満でも検査はできるようにつくられておまして、2歳児では指差しができるとか、あとは言葉の様子だとか、あとは少し手の巧緻性とか、積み木を積めるかとか、そういったところを見るようにしております。

内山座長 そのほかにいかがでしょうか。

あと私のほうから伺います。参考資料3でシンポジウムのご報告をいただいたんですが、これが第4回ということですが、ご協力いただいているところは全国各ユニットにいらっしゃるの、今回は東京で、前は開催地がどこか違うところでしたか。これから全国を回られるのか、あるいはもう大都市でしかできないものなのか、そこら辺で何かお考えあったら。

永井室長補佐 こちらのシンポジウムについては、毎年、東京でしております。先生ご指摘のシンポジウムは名古屋でおこなったものかと思うんですが、それは国際シンポジウムです。

内山座長 国際シンポジウムですか。このエコチル調査シンポジウムというのは、毎回東京で開催しているのですか。

永井室長補佐 はい、毎回東京でしております。

内山座長 ずっとこれからも東京でしかやらないのでしょうか。参加者は200何名でお母さん方が多いと伺ったんですが、ご協力されている方は全国にいらっしゃるし、これからどんどん結果が出てくると思うので、少し開催場所や方法をお考えいただければと思うんですが。

針田室長 事務局でも試行錯誤の部分がありまして、今回初めて休日に開催させていただきました。実は以前は平日にやっておったんですけれども、今回初めてお休みの日にやったということと、場所も日本科学未来館というお子さんがいっぱい集まる場所でさせていただきました。ちょうど先ほどご報告させていただきましたけれども、私どもの認識としては好評を得たというふうに思っております。

また今後、内部で検討させていただきまして、来年からまた変えるべきところは変えていきたいというふうに思います。

内山座長 そのほかにいかがでしょうか。どうぞ。

稲垣委員 何度もまた申し訳ありませんが、2歳児の詳細調査のことを少しお尋ねしたいことがあるんですけれども、具体的には先ほど新版K式というお話もありましたが、お母さんとお子さんが病院ないし関連施設に来られて、一人当たりどれぐらいの時間を、いわゆる拘束というのでしょうか、協力していただけるような時間ともくろんでいるのか。

実際それにどれぐらい充てる時間を考えているのか、実際それがどれぐらいの時間を与えると、1カ月当たり何人ぐらいが対象にできるのか、そこら辺、もしもわかっているのであれば、教えてほしいんですが。

新田コアセンター長代行 新版K式に関しましては、恐らく単独である場合、それから医学的検査と同日に続けて実施する場合、それぞれ先ほどご説明させていただきましたように、地

域によっていろんなリソースに違いがありますので、ユニットがそれを最適化して実施計画を立ててというふうに、コアセンターとしても指示をしているところですが、それぞれ別々に実施したとしますと、新版K式は恐らく1時間程度、それから医学的検査については1時間半程度で終了する見込みで、準備を進めております。

ですから、例えば担当医師が1人いて、スタッフ、いろんなプレパレーション、ディストラクションのチャイルドケアのスタッフを配置した上で、この検査を実施する予定にしておりますので、もし場所が1カ所であれば一日3人～4人実施可能ということで、各ユニットでスケジュールを組んでおります。

ただ、中央に、各ユニットの、例えば大学がユニットセンターである場合に、対象地域が集約している所と、かなり広い地域をカバーしているような、例えば、中心の大学まで一番遠い地域の居住者ですと、数時間かかるような地域も実際にはございますので、その場合には、その地域にまた検査の場所を設けるとか、さまざまに工夫しながらということで、交通の時間も含めると、かなり地域によってばらつく可能性はございます。

そのリソースをさまざま有効に利用しながらということですが、検査の時間としては今申し上げたような検査ということで、今までの調査でも準備を進めて試行してはいたしましたが、時間の拘束については、あまり保護者の方から、非常に時間が長くて困るというような、そういうクレームのようなものはいただいておりませんでしたので、実際の詳細調査においても、そのスケジュールで進めているところでございます。

稲垣委員 ご存じだと思いますけど、1歳半とか2歳、3歳というのは結構人見知りが多くて、その時間どおりにできればいいなと思うんですけども、むしろお子さんの状況によっては、できないことも十分あり得るのかなという部分も想定できると思いますけれども。

ご負担のないようにということが前提だとは思いますが、そこら辺は検討いただければと思います。

新田コアセンター長代行 その辺り、ほかの調査でも今回の研修の中でも、そういう子どもさんに負担をかけないような、スムーズに、しかも詳細調査、検査は、この1度切りではなくて、今のところ2歳毎の実施ですので、喜んで帰っていただいて、また次に来ていただくというようなことを一番重要視して計画を立てておりますし、健診においても各ユニットのスタッフにその考え方を徹底して進めているつもりでおります。ありがとうございます。

内山座長 どうぞ。

麦島委員 エコチル調査シンポジウム、私も参加させていただきましたが、これから広報活

動というのは大変重要になってくると思います。開催日を日曜日にしていただいて、参加しやすくしていただいたと思います。

講師の先生方も大変わかりやすく説明していただきましたし、また尾木ママからも、大変おもしろい話をしていただいて、私自身も参考になりました。あのとき、たしかアンケート調査をされていましたがこのシンポジウムをどのように知ったかどうでしたか。関係者もかなり来られていて、実際ここに関わっている方たち、エコチル調査に協力をされているご両親もお見えになっていたと思うんですけども、もうちょっと多いかなと思ったんですけど、その辺どうお考えでしょうか。

永井室長補佐 確かに先生がおっしゃるように、最初の申し込みは、事前の一般申し込みがもうちょっと多かったのですが、当日は209人でした。当日、来場者向けにアンケートを行いまして、その内訳を見てみますと、ほとんどが環境省のホームページ、報道等というふうになっております。

内山座長 これだけのシンポジウムは、本当に数百名ではもったいないと思うので、今の時代ですから、当日のビデオを後でエコチルのホームページに載せておけば、全国どこからでも環境省のホームページでビデオを見られるとか、同時中継するとか、いろいろな工夫があると思いますから、なるべく多くの方に発信できるようにしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

中下委員 今お話にありました発信なんですけれども、できるだけ、とにかく来られる人というのは限られていると思いますので、わかりやすく発信を心がけていただきたいと思うんですけど、わかったことの中で、例えばお母さんたちに、もう少し気をつけたほうがいいのかというふうな、注意を喚起するような発信をあわせてやっていただけると、自分たちが協力したことが非常に役に立っていると。

データを見ていると、かなり低体重のお子さんが多いんじゃないかなと思って、私はびっくりしたんですけども、その辺のところも、ここでどうかとの説明もありますけれども、その方の問題の観点から、少し低栄養という問題があるので、体重について気をつける、あまり減らさないようにだとか、そういうような情報発信も少しあってもいいのかなというふうに思うんですけども。

そもそも、このデータをどういう形で今、分析されていらっしゃるのでしょうか。

新田コアセンター長代行 今の低出生体重が多いというご指摘は、これはエコチル調査で先ほどご報告をしました第一次一部固定データ1万人のデータのお母さんの解析結果は、近々に

そのプロフィールについて公表される予定になっておりますけれども、その結果を見ますと、厚生労働省がまとめております全国の国民全部の出産の出生体重と全く変わりません。エコチルだけが低いということではございません。

ですから、そういうことも含めて、情報発信をしたいというふうに思っておりますけれども、今回のこのシンポジウムでの結果は、各ユニットも共有して、ユニットセンター独自の、例えばニュースレター、それから私どもコアセンターの全員に、半年に一度ニュースレターを配布しておりますので、その中で、シンポジウムで使ったような資料を引用しながら、再度そういうニュースレターでお知らせするという事は、もう既にこれまでも行ってきております。

今後は、たくさんデータが集まって、そういう情報提供すべき内容がたくさん出てまいりますので、そこも重要な点、それから参加者の方が非常に興味を持たれている点を、我々も十分に把握して、情報発信していきたいと。

それは広報活動としての面ですけれども、一方で科学的な、きちとした科学論文としてピアレビューされたものを、一方で、しっかりと発信して行って、その結果もコミュニケーションを参加者、国民に向けてきちと説明できるような方策も、参加者コミュニケーション専門委員会の中で議論をしながら進めたいというふうに思っているところです。

内山座長 ありがとうございます。情報発信は途中経過等も全ての方に見ていただけることになるのですが、最終的に、エコチル調査としての結果ということが重要になってくると思います。早ければいいということもあるんですが、数字だけがひとり歩きしないように、いろいろ注意しながら情報発信していければと思いますので、その点はよろしくお願ひしたいと思います。

それでは大分議論やご意見いただきましたが、この辺でよろしいでしょうか。

次の議題に移りたいと思いますが、よろしいですか。

(はい)

内山座長 そうしましたら、議題(2)エコチル調査の第2次中間評価についてということで、事務局から説明していただいて、その後、議論したいと思います。よろしくお願ひいたします。

永井室長補佐 お手元に、資料4と参考資料5をご用意ください。

参考資料5ですが、これは第1回の委員会においてご了承いただきました実施要領でございます。この中間評価といいますのは、企画評価委員会において調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の評価を実施することとしております。この評価の結果につきましては、調査計画、運営実施の改善、予算等の資源配分

の反映のため活用することとしております。

また、国民への説明責任を果たすため、これらの活用状況も含めて評価結果等を公表することとしております。

審議の経緯ですが、資料4の26ページをご覧ください。前回9月29日に開催いたしました本委員会の後、10月9日～11月19日まで環境省による実地調査を行いました。その後2回、この委員会の下部組織であるエコチル調査評価ワーキンググループを開催いたしまして、平成26年度第2次中間評価書（案）を作成いただきました。

資料4、平成26年度第2次中間評価書（案）につきまして、ワーキンググループ座長を務めてくださいました村田委員、及び事務局より報告をしたいと思います。

それでは村田委員より、1.の「はじめに」と、2.の「概評」まで報告をお願いいたします。

村田委員 村田でございます。子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）第二次中間評価書（案）の作成においては、資料4の28ページにあります井口先生、田中先生、麦島先生、それに本委員会の座長の内山先生の5名で、資料4に記しておりますように、（案）として作成いたしました。

まず「はじめに」ですが、子どもの健康と環境に関する全国調査は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であるということであり、今回の第二次中間評価では、平成22年度から25年度まで実施していたリクルートを評価するとともに、フォローアップの進捗度の点検と目標管理、運営の改善、研究の質の向上等の観点から、中黒ポチ以下にある調査実施のための組織体制の妥当性、最終的なリクルート者数、達成率及びカバー率、それにフォローアップの進捗状況、進捗管理の状況、フォローアップ率の見込み、フォローアップに関する要改善事項、そして長期的なフォローアップの準備状況、それ以降も詳細調査に向けての準備状況などを評価いたしました。

次に、2の概評であります。

まず組織体制については、本エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンターが実施主体となってメディカルサポートセンター及びユニットセンターとの協働により実施しております。その実施体制は、総体として問題なく機能していたと判断いたしました。

ただ、今後13年間、参加者が調査から脱落することなく、継続して参加していただくよう、調査に係る各実施機関が情報共有を行うなど、より一層連携を強化する必要があります。

平成26年度はリクルート期間が終了したことにより、本格的なフォローアップ期になること、また、追跡調査対象者10万人のうち5,000人を対象とする詳細調査が開始することから、各コ

ニットセンターにおいて、関係する教室間の連携、協力体制を確保する必要があります。また、地域運営協議会の組織等を通じ、医療関係者や地方公共団体との協力体制を構築する必要があります。

それから、次にリクルートですが、本調査は10万人の子どもを対象に、環境と健康の関係を解明するものであり、その成否は目標どおりのリクルートとフォローアップにおける高い追跡率の確保にかかっております。「10万人」という対象の設定につきましては、これまで何度もお話しがありましたように、先天異常等の発生率が極めて低い事象に係る解析を行う観点から決められた数値でございます。

2ページ一番下になりますが、平成26年3月末をもってリクルートを終了し、最終的なリクルート数は、10万3,106名となり、目標参加者数である10万人に到達しました。20頁別表の表1です。

父親リクルートについては、平成27年1月28日現在5万1,913人であり、母親に対する割合は約50%となっており、これは21頁別表2、にあります。

次にカバー割合の定義は「調査地区において調査参加者が出生した児の数の総数を人口動態統計による調査地区の総出生数で割ったもの」ですが、これについては本年度の評価書の中では統一した分母はありませんでしたが、とりあえず算出しますと、22頁別表3にありますように全国で47%です。これについては、今後來年度以降は、全国15のユニットセンターとも同じ基準を用いて度算出する必要があるかと思っております。

次にフォローアップです。

23頁別表4ですが、生体試料の回収率、回収状況が示してあります。登録等々のタイムラグがありますので、回収率は参考値でありますけれども、母体の生体試料回収率は妊娠前期、妊娠中～後期、それに出産入院時、生後1カ月でそれぞれ89.2%、95.0%、95.8%、86.7%と、高い回収率となっています。父親の生体試料回収率は95.9%、そして子どもの生体試料回収率は臍帯血、新生児、そして生後1カ月はそれぞれ88.4%、95.5%、95.6%と、非常に高い回収率になっておりました。

次に出生後の質問票回収率は24頁別表の表5にありますが、平成27年1月28日現在の集計で、生後6カ月が93.7%、1歳が90.7%、1歳半が88.4%、2歳が86.7%、2歳半が84.9%と、高い回収率を維持しており、概ね順調と言えます。ただ数値をご覧になるとわかりますように、年齢が上がる、そして追跡期間が長くなるに伴って回収率も低下する傾向が見られており、これを維持できるように、今後もまた見ていく必要があるかと思っております。

次に、詳細調査の準備状況でございます。これはこの資料4の4ページに書いてありますが、詳細調査は平成26年10月から1歳6カ月児の訪問調査のリクルートが開始されたところであり、概ね順調に進んでいると判断いたしました。平成24年度の4月から、これに加えて2歳児の医学的検査、精神神経発達検査が開始予定であります。各ユニットセンターにおいて実施体制、そして全体研修は適切に計画され、実施されつつあるように思われました。

次に2-5の個人情報の管理ですがということで、個人情報の適切な管理については平成25年10月16日に、エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルールが策定されましたが、今のところ不適切な事例は見られていないということが概評です。

続いて、実施機関別の評価ということで話させていただきます。

まず環境省でございます。環境省の役割というのは調査に関わる予算の確保、そして国税として集められた予算が、国家の目的に沿って研究に配布されているかどうか、そして国民の納得できる成果を出しているかを管理監督することになるわけですが、これにつきましては4ページの3-1のところに書いてありますように、概ねこれらは実施されていると思われま。今後の予算確保は特に安定してやる必要がありますので、そのための努力を継続していただきたいと思ひます。

次に5頁に移りますが、5ページのノルウェー、デンマークと書いてありますが、そのところに脱字がありまして、3行目、「大規模出生コーホートとより」ではなくて、「コーホート調査とより一層、連携を」という、「調査」が抜けておりましたので、ご訂正願ひます。

環境省につきましては、これからフォローアップ期間は特に小児科関係者の協力が必要になります。それから将来的には小学校の協力も得ないと、なかなかできないということもあります。このために厚生労働省、文部科学省、小児科関連団体等との情報共有を進め、より一層の連携を図っていただきたいという希望を書いています。

また追加調査に関しましては、追加調査の進捗状況を環境省としてきちんと把握するとともに、またその進捗に関する情報や成果について発表の場をつくり、国民の理解の増進や若手研究者の育成につなげていくことも期待されます。特にエコチル調査というのは、13歳になるまでの長期間であるということで、これらを継続できる実施体制を構築する必要があります。このため、環境省内においてエコチル調査に長期間従事する専門官というのを、ぜひ配置していただきたいという要望も書き添えております。

次にコアセンターであります。エコチル調査の実施主体として、また各種委員会を運営して調査内容や現場の課題等を検討し、全国のユニットセンターと緊密な連携を図りながら全体

をまとめるという役ですが、概ねやっておられるというふうに判断しました。そのために、一方で環境省との連携をとっていただきたいということ、そして高い追跡率の確保が最重要課題の一つとなることを踏まえ、各ユニットセンターの質問票の回収状況を把握し、適切な助言を行っていただきたいということです。詳細調査につきましては、昨年度10月より始まっており、また本年の4月から、これに加えて2歳児の医学的検査が開始予定です。これらもきちっとサポートとしていただきたいということでございます。

また、個人情報管理については、コアセンター及び各ユニットセンターの個人情報管理状況が適切であるかどうかということを定期的にチェックする体制を維持していただくことを期待しております。

このコアセンターにおきましても、子どもが13歳になるまでの長期にわたる調査であるということに鑑み、これらを継続できる実施体制を構築していただきたい。そして現状分析すれば、正規雇用の研究系職員の人数が不足していることに加えて、世代交代を見据えた人材の育成が必要であることから、次世代を担う研究系職員を早急に配置し、また内部で研究者の育成を行っていただきたいという希望を書いております。

メディカルサポートセンターであります。第一次中間評価では、フォローアップ計画や詳細調査の具体的な検討の遅れが指摘されましたが、現在は「計画立案 パイロット調査試行 本調査開始」という流れがきちんと構築され、順調に検討が行われているというふうに判断いたしました。

また、本年4月から詳細調査の医学的検査開始に向けて、平成27年1月から2月に詳細調査の全体研修を実施するなどして、ユニットセンターに個別に支援を行っているというふうに判断いたしました。このメディカルサポートセンターにおきましても、やはり13年間をきちっとサポートできるような体制を構築していただきたいと希望しております。

内山座長

概要のところと、それから環境省、コアセンター、メディカルサポートセンターのご説明までいただきました。ワーキンググループでつくっていただいて、議論した結果の（案）ですが、こういうところが抜けているとか、ここはこうした表現がいいんじゃないかとか、あるいは何かご意見ございましたら、どうぞ。

藤村委員 藤村です。今のご報告、資料4において、2-4のところ、詳細調査、準備状況、これは、先ほどもちょっと自分がここで質問させていただきました。

この評価については、全体研修が適切に計画されていると、概ね順調に進んでいるという

評価になっているんですが、詳細調査について、詳細調査実施計画書というふうなものがこの会ではまだ提出されていないと思うんです。その辺が知りたいところなんですけれども。

要するに、先ほど私は、ここの質問でも、例えば健診をするときに常勤であるのかとか、非常勤だとかちょっと質問、具体的なことをしましたよね。そういうふうな人たち、それから全体として、全国でどういう勤務状況で、こういうふうな人員は配置しないとイケないだろうと。受診回数はわかっていますから、当然先ほど1時間、1時間半というような答えもされましたが、ああいうふうなことは、ここの会でご説明いただくのは、詳細計画の断片だと思うんです。そういうようなものは、まだつくられていないのでしょうか。その辺をお伺いしたいと思いました。

新田コアセンター長代行 詳細調査の研究結果表につきましては、本日の参考資料2でお示ししております。計画書策定の段階で、この場でもご説明したつもりでございましたけれども、それが抜けておったとすれば、大変申し訳ないというふうに思っております。

内山座長 参考資料2ですね。

藤村委員 そうですね。これはまだご説明いただけていないのでしょうか。

針田室長 すみません。委員の先生で交代した人もいらっしゃいまして、申し訳ないんですけれども、これは以前ご説明させていただいたというふうに思っております。私も途中でかわった人間なので、どの時点でという話があったら申し訳ないけれども、一応、詳細計画をあわせて全体。去年の2月です。ちょうど1年前にご説明させていただいたところがありましたけれども、ほとんど変わっていないと思います。

細かいことがいっぱい書いてあるので、今日は、ご説明は割愛させていただきますけれども、今回の評価書に関しましては、かなりしっかり研究を立てて、過去に諸外国を初めとしまして、いろいろ計画について、非常にご指摘があったというふうに認識しておりますので、それに関しては計画書をしっかりつくって議論して、進めてきているというふうなつもりでおります。

今回は、時間の都合上割愛させていただきますけれども、適宜こういう情報は出していこうと思っています。以上です。

藤村委員 参考資料2を十分に見ずに質問したんですが、それで先ほどの詳細調査で、資料3の6ページのところで、私が先ほど質問した内容は、どのように触れられているかということになると思うんですけれども、今の参考資料2だと、どうも4ページの4-2の1の部分だけですね。

針田室長 この研究企画の大もとになるものですので、一応、細かいことは書いていますつもりですが、これが全体像のグラウンド・デザインで決まっていまして、さらに実務上は細

かい勉強会とかでもっと細かいお話をさせていただいています。個別の対応、時間がかかる患者さんもいるんじゃないか、関心のある方もいるんじゃないかという話もありますし、こういったものを研修会等で話してはいるんですが、本日はそういう細かい資料は提出しておりませんが、基本的にはこの委員会に基づいて進められているという感じになっています。

大矢メディカルサポートセンター副センター長 つけ加えさせていただきますと、この研究計画書のほかに、詳細調査実施マニュアルという、もっと分厚いものがございます。あとは結果に関しても、またそっちはそれでまたございまして、かなり分厚いものがこれらのほかにまだ実際にございまして、それに従ってこの研修会を開いていくものです。

内山座長 この企画委員会では、1回も参考資料として出てきていなかったですか。前回のときに。

新田コアセンター長代行 基本的に実施マニュアルは、この場では、今までは提出してきておりません。もちろん、そういうご判断があれば提出させていただきたいと思いますが。

藤村委員 特に精神神経発達検査の部分は、この参考資料2よりも、今日ご説明いただいた資料3のほうが詳しいことが書いてあるわけです。順序から言えばそういうもっと細かいところから、ここへ抽出されるべきものが、どうも細かいところがここへ今日ご説明いただいたので、それで私は誤解したという。これもちょっとこのことはほかにご説明があったのかなとか、あるのかなとか思ったわけですが、参考資料2がもし細かい内容でしたら、言われたようにマニュアルを拝見したいなと思うのですが。

内山座長 わかりました。参考資料でマニュアル等を各委員に添付ファイル等でお送りして見ていただくことは可能です。それは今日以降になりますけれども、送っていただいて、多分膨大なものになるようですが、それでまたご確認いただければいいと思いますが。

針田室長 資料送付に関しましては、また検討させていただきます。

内山座長 村田委員からお話しあったように、多少遅れてはいたけれども、現在は今順調に詳細調査のほうのマニュアルもできて、それから担当者の研修等も実際に行われているということで、その評価はよろしいでしょうか。

遠山委員 もし特別のデータ、資料の公開に関しては、限定的にしなくてはいけないのであれば、パスワードをかけるのは当たり前ですが、ドロップボックスの中で情報共有がしやすいようにしていただくということが可能ならば、そうしていただければ、一々紙媒体で送っていただくなくても、電子媒体もしくはクラウドといいますが、クラウド上で見るようなことでもし問題が起きないのであれば、そうしていただくとありがたいです。もし問題があるよう

であれば、必要部分だけを紙媒体で送っていただくということでもいいですが。

針田室長 現場のマニュアルを含みまして、実際のいろんな電話の受け答えマニュアルから始まって、相当実はありまして、どの部分まで出すのかという話は、先生の言われたとおり、結構センシティブな部分も当然受け答えの仕方とかありまして、変な誤解を受けてしまうものもありますので、相談させてください。決して出さないと、そういう意味ではなくて、ぜひ相談させてほしいということです。

新田コアセンター長代行 新版K式の検査に関しましては、開発元が著作権を持っておりまして、調査票とかの取り扱いはかなり厳密なことを求められておりますので、その点については、ちょっと配布資料から若干先方との契約の関係で、抜ける可能性もあるかなと思いますので、その点あらかじめご了解いただければと思います。私ども研修の資料も通し番号をつけて管理するように求められているような状況でございますので、その点ご理解いただければと思います。

内山座長 わかりました。それでは少検討をいただいて、配布できるところは検討していただくというふうにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(はい)

内山座長 そのほかにもございますか。どうぞ。

稲垣委員 ちょっと違った視点からご指摘なんですけれども、資料4の2ページの上のパラグラフで、「平成26年度はリクルート期間が終了したことにより」から、「さらなる体制の強化が求められる。」というところと、それから次の3ページの一番下に書かれているフォローアップの重要性ということに関連したことなんですけれども、いわゆるユニットセンター、環境省も含めて協力いただく主体といたしますか、調査をする側の視点というのがとても大事なんですけれども、協力をしてくださるお母さんやお子さん、それから旦那さんといいますが、お父さん、そういったものの視点での例えば具体的にいいますと、日曜日に行けるような環境をつくるか、あるいは仕事をされているようなお母さん方もいらっしゃるかと、いろいろあると思うんです。

なので、文言はお任せしたいと思うんですけれども、そういう協力をしてくださるような、特に詳細調査に来られるようなことを想定する言い方もすごく具体的じゃなくて申し訳ないんですけれども、ここには各領域の連携協力を維持強化する云々というようなことを書かれているんですけれども、その対象者といいますが、お母さん、お子さんが来やすいような環境を整えるというような視点での記載もあってもいいのかなというふうに思ったという、そういうこ

とでございます。何かご検討いただけるとありがたいんですけども。言っている意味は大体通じていますでしょうか。すみません。

内山座長 これはこちらの方からですか。

稲垣委員 そうですね。こちらが言うことではないかもしれませんが。すみません。そういったことが含まれているというふうに理解しておきます。

内山座長 よろしいでしょうか。ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

内山座長 では、次に行きましょうか。

永井室長補佐 引き続きまして8ページ以降のユニットセンターについて、ご説明いたします。

このユニットセンターについてですが、ワーキンググループにおきましてリクルート数、カバー割合、質問票の回収率については、客観的指標である統計値を用いて相対評価を行うべきというご指摘をいただきましたので、そのように評価をしてあります。

20ページをご覧ください。

例えば表1、リクルートの達成率というところですが、右端に評価というところにS・A・B・Cで評価を書かせていただいております。この評価ですが、Sにつきましては、平均値プラス1.5SD以上。Aにつきましては平均値から1.5SD未満という形でS・A・B・Cで記載しております。

表2のリクルート以降も、同じように記載しております。

それでは8ページに戻っていただいてよろしいでしょうか。まず北海道ユニットセンターからご説明をいたします。

(1) 北海道ユニットセンターですが、母親のリクルートは当初がB、変更後はA、カバー割合がBでございます。

当初のリクルート目標数9,000人に対しまして、平成24年度第一次中間評価を受けて、リクルート数を8,250人に見直しました。その後リクルート数の見直し後、行政とも連携しつつ調査対象候補者に積極的な声かけを行い、声かけの漏れを減少させるために継続的に対策を講じた結果、見直し後のリクルート数を超える8,362人という最終的な数字になりました。カバー割合が41%です。

父親リクルートにつきましては、母親のリクルートの際や保健センターでの両親教室で積極的に声かけを行いましたが、母親リクルート目標数に対する父親のリクルート率は35%にとどまっております。

質問票回収率ですが、回収率向上のために質問票の返送について再依頼の時期や方法を検証するなどの取組を行い、1歳、1歳半、2歳において、ほかのユニットに比べて高い回収率を維持しております。

そのほかですが、北海道ユニットセンターの調査対象地域は札幌、旭川、北見の3地域となり、かなり広域に存在しておりますが、サブユニット間での連携及び行政との連携が積極的に行われております。また北海道ユニットセンターでは、追加調査を実施しており、学会等でも積極的に成果発表を行っております。ただしエコチル調査の本体調査へ影響しないように留意が必要であるというふうに書いております。

続きまして9ページ目、(2)宮城ユニットセンターです。

母親リクルート数ですが、当初はA、変更後はC、カバー割合がSとなっております。

リクルート目標数9,000人に対しまして、第一次中間評価を受けまして、9,900人に上方で修正しております。しかしその後、東北メディカルメガバンク事業との調整の都合上、平成25年10月末に、四つある調査対象地域のうち3地域についてリクルートを終了いたしました。その結果、9,217人が最終的なリクルート数となっております。

こちらにつきましては当初のリクルート目標数を上回る数ではございました。また、カバー割合は63%となっております。

父親のリクルートにつきましては、父親と対面できる機会を捉えまして、医療機関に常駐しているリサーチコーディネーターが積極的に声かけを行いました。平均を下回る42%となっております。

質問票の回収率は、生後6カ月から2歳半のいずれもほかのユニットセンターと比較して低くなっております。

そのほかといたしましては、先行研究である東北コーホート研究の経験を、エコチル調査の全体調査や詳細計画に広く活用しております。エコチル調査の枠組みを活用し、エコチル調査の追加調査に力を入れている点は評価できますが、エコチル調査の本体調査に影響を及ぼさない配慮が必要であるというふうに書いております。

続きまして、(3)福島ユニットセンターです。

福島ユニットにつきましては、目標数6,900人でしたが、東京電力福島第一原子力発電所事故後、平成24年10月1日から調査地域を福島県全域に拡大しておりまして、リクルート目標数を1万5,900人に再設定しております。こちらにつきましては、全協力医療機関51施設、59市町村をセンター長が訪問し、協力依頼を行っております。最終的なリクルート数は1万3,135人と

なっております。カバー割合については、49%となっております。

父親のリクルートはA判定です。母親のリクルートや同意時に母親から父親への声かけを依頼することなどにより、54.7%となっております。ほかのユニットセンターと比較して高い水準を達成しております。

質問票の回収率はA判定です。質問票の回収率の向上のために、質問票の未返送者に返送依頼を行う際には、育児相談をあわせて行うなど、参加者の目線に立った取組を行った結果、生後6カ月から2歳のいずれにおいても、ほかのユニットセンターに比べて高い回収率を維持しております。

そのほかにつきましては、こちら福島ユニットセンターは、センター長を初めリサーチコーディネーター、スタッフなど関係者の連携が緊密に行われており、調査が順調に実施されております。

続きまして、(4)千葉ユニットセンターです。

母親のリクルートにつきましては、当初はB、変更後はB、カバー割合がBとなっております。

当初のリクルート目標数は7,800人でしたが、第一次中間評価を受けて、現実的に達成可能な6,400人に見直しました。その後リクルート促進のため、母子健康手帳交付時に参加登録できるなど、体制を整えてリクルートの進捗状況を改善いたしましたが、最終的なリクルート数は6,192人となり、見直し後のリクルート数も達成できませんでした。カバー割合は40%となっております。

父親リクルートについてはA判定です。リクルート数向上のために、母親の同意取得時などに父親向けの説明書を渡し、父親研究の重要性を伝える取組をした結果、62.1%と、ほかのユニットと比べると比較的高水準となっております。

質問票の回収率はB判定です。質問票の回収率は、生後6カ月～1歳半までは概ね順調ではありますが、2歳ではほかのユニットセンターと比較して、比較的低い傾向にあります。こちらにつきましては、ほかのユニットセンターと情報共有するなどして、ほかのユニットセンターのいいところを学んでいただき、回収率を向上するための取組を早急に検討し、改善することが望まれるというふうに書いております。

そのほかといたしましては、WHOにエコチル調査に携わっていた教員を平成26年4月から派遣し、国際貢献を行っております。

また個人情報管理につきましては、情報セキュリティ及び個人情報保護に沿った厳格な運用を行っており、高いセキュリティ体制を構築しております。エコチル調査の枠組みを活用

して、追加調査に力を入れている点は評価できますが、エコチル調査の本体調査に影響を及ぼさないよう配慮が必要であるというふうに書いております。

続きまして(5)神奈川ユニットセンターです。

母親リクルートは当初がA判定、変更後がA、カバー割合もAとなっております。

当初のリクルート目標数は6,000人でしたが、第一次中間評価書を受けて6,650人に上方修正をしております。リサーチコーディネーターの声かけに加えて、エコチル調査の認知度を高めるための広報を積極的に行った結果、6,652人となり、当初よりも高いリクルート目標数に引き上げたにも関わらず、目標を達成したことは大変評価できるということです。カバー割合は49%となっております。

父親リクルートはBです。父親が医療機関へ来院しやすい日に面談日を設けるなどの取組を行いましたが、36.8%にとどまっております。

質問票回収率はAです。質問票回収率向上のために、返送依頼の時期や方法の検討など、さまざまな取組を行っており、生後6カ月～2歳のいずれにおいても、ほかのユニットセンターよりも高い回収率を維持しております。

そのほかにつきましては、神奈川ユニットセンターはスタッフの人数が他の同規模のユニットセンターに比べて少ないんですが、運用の中でさまざまな工夫を行うことで、エコチル調査を順調に実施しており、評価できるとなっております。

続きまして、(6)甲信ユニットセンターです。

母親リクルートは当初がA、変更後はA、カバー割合がSとなっております。

当初のリクルート目標数は7,200人でしたが、第一次中間評価を受けて、7,250人に引き上げております。その後、参加者からの声をリクルートに活用したり、調査地域外での出産をカバーするために協力医療機関を大幅に増やすなどの努力により、7,337人と、最終的なリクルート数となっております。当初よりも高いリクルート目標数に引き上げをして、目標を達成したことは大変評価できるということです。またカバー割合は60%と高い水準を達成しております。

父親リクルートについてはA判定です。父親が参画する行事の際のリサーチコーディネーターによる積極的な声かけなどの取組を行った結果、69.2%とほかのユニットセンターと比較して高い水準を達成しております。

質問票回収率はBです。質問票回収率向上のために、質問票のみ返送者へ返送を依頼する際には、手書きの手紙を送ったり、回収率について詳細な分析による時期、方法等の検討を行っており、概ね順調に行われております。さらに回収率を向上させるために、ほかのユニットセ

ンターと情報共有を行うことなど、対策を検討することが望ましいというふうに書いております。

そのほかですが、参加継続の方策といたしまして、参加者の目線に立った取組を実施しております。またリクルート時、フォローアップ時も意識して、丁寧な説明を心がけており、それが高い父親同意率や質問票回収率につながっていると評価ができます。

続きまして13ページ目、(7)富山ユニットセンターです。

母親リクルートは当初がB、変更後がB、カバー割合がBです。

当初のリクルート目標数は6,900人に対しまして、第一次中間評価を受けて、調査対象地域を拡大し、5,700人に下方修正をしております。リサーチコーディネーターによる積極的な声かけや自治体等と連携した広報などの取組を行いましたが、最終的なリクルート数は5,584人となり、見直し語も目標数に対しては98%となっております。カバー割合は43%でした。

父親リクルートはA判定です。医療機関に常駐しているリサーチコーディネーターが積極的に声かけを行った結果、57.5%となっております。

質問票の回収率はS判定です。はがきや電話、ショートメールによる質問票の、未返送者への返送依頼を行うとともに、それらを詳細に分析し、対策を講じた結果、生後6カ月～2歳半のいずれも、ほかのユニットセンターと比べて非常に高い回収率となっており、大変評価できます。

そのほかといたしまして、質問票の回答するに当たっての説明文書等を質問票の発送時期にあわせて参加者に送付する、また必須事項の記載漏れを減らすというような取組を行った結果、大変有益な取組を行ったということが評価できると書いております。

続きまして(8)愛知ユニットセンターです。

母親リクルートは、当初がB、変更後がB、カバー割合はBとなっております。

当初のリクルート目標数6,000人に対しまして、第一次中間評価を受けて5,850人に下方修正をしてあります。妊婦の受診動向の変化を踏まえ、新規協力医療機関に追加など、対応の努力は行われましたが、最終的なリクルート数は5,721人であり、見直し後も目標数には到達することはできませんでした。カバー割合は43%となっております。

父親リクルートにつきましてはB判定で、妊婦健診や出産・入院時、1カ月健診時にリサーチコーディネーターを医療機関へ配置するなどしましたが、44%となっております。

質問票の回収率はBです。質問票の回収率、概ね順調に行われていますが、さらに回収率を向上させるために、未返送者への返送依頼の時期や方法等を検討することが望まれるというふ

うに書いております。

そのほかといたしまして、1歳6カ月健診をエコチル調査参加者と対面できる貴重な機会と捉えまして、行政の協力のもと、エコチル調査ブースを設置して、フォローアップ活動を展開しております。また、追加調査を行っており、論文発表等、積極的な成果の発表を行っている点は評価ができます。

(9)京都ユニットセンターです。

母親リクルートにつきましては当初がB、変更後がA、カバー割合がBとなっております。

当初のリクルート目標数5,000人に対しまして、第一次中間評価書を受けて3,850人に下方修正をいたしております。対象者への声かけ漏れがないように、リクルート方法を工夫するなど取組を行い、最終的なリクルート数は3,984人となっております。カバー割合が39%となっております。

父親のリクルートについてはS判定です。エコチル調査の内容がわかるDVDを全員に配布する取組を行った結果、81.7%の高い水準となっております。ただし、父親のリクルートは対面では行っていないため、ほかのユニットセンターとは異なる方法で、父親のリクルートを行っていることに配慮が必要です。

質問票の回収率はAです。調査地域に応じて質問票の返送、再依頼方法を変えるなど、地域の実情に応じた取組を行った結果、6カ月～2歳のいずれにおいてもほかのユニットセンターと比べて高い回収率を維持しております。

そのほかといたしましては、参加者のみならず、調査地域の子どもの成長・発達に貢献するためということを目的に、地域の方々を対象にした調査の理解を高める取組を行っております。また追加調査をほかのユニットセンターと共同で企画し、論文発表等、積極的な成果発表を行っている点は評価ができます。

続いて(10)大阪ユニットセンターです。

母親リクルートについては当初がA、変更後がA、カバー割合がAとなっております。

当初のリクルート数は7,500人に対しまして、第一次中間評価を受けて8,000人に引き上げております。その後、リサーチコーディネーターの積極的な取組により、8,043人と、最終的なリクルート数はなっております。当初よりも高いリクルート目標数に引き上げをして、目標を達成したことは大変評価ができます。カバー割合が49%となっております。

父親リクルートにつきましては、協力医療機関にリサーチコーディネーターを配置し、積極的に声かけを行いましたが、37.5%にとどまっております。

質問票の回収率につきましては、B判定です。未返送者に返送依頼をする際に、はがきに手書きで一言添えるなど、丁寧な対応を行った結果、概ね順調に行われておりますが、さらに回収率を向上させるために、ほかのユニットセンターとの情報共有を行うことなど、対策を検討することが望ましいというふうに書いております。

そのほかといたしまして、大阪ユニットは、大阪大学と大阪府立母子保健総合医療センターが共同で調査を実施しておりますが、積極的にコミュニケーションを行い、それぞれが実施機関の特色に応じて調査の実施方法を工夫するなど、円滑に調査を実施できております。

続きまして(11)兵庫ユニットセンターです。

母親リクルートにつきましては当初がB、変更後がC、カバー割合がBとなっております。

当初のリクルート目標数、6,600人に対しまして、第一次中間評価を受けて5,600人に下方修正しております。その後調査地域外での出産をカバーするために、協力医療機関の追加や、行政機関と一体となった取組を行いましたが、最終的なリクルート数は5,189人となり、見直し後の目標数に対しては92.7%と、全ユニットで最低でした。カバー割合は40%となっております。

父親リクルートについてはB判定です。こちらにつきましては1カ月健診のときなど、父親と対面できる機会に積極的に声かけを行いましたが、33.9%にとどまっております。

質問票回収率はAです。1回目にはがき、2回目に電話、3回目で手紙といったような再依頼を行った結果、生後6カ月～2歳で、いずれもほかのユニットセンターと比べて高い回収率は維持しております。

そのほかといたしましては、尼崎市長からの参加の呼びかけなど、行政機関と一体となった取組を行っており、評価ができるとなっております。

続きまして(12)鳥取ユニットセンターです。

母親リクルートは当初がA、変更後がA、カバー割合はBとなっております。

こちらのリクルート目標数は、当初の第一次中間評価後も変わらず3,000人となっており、最終的なリクルート数は3,059人となっております。カバー割合は48%でした。

父親リクルートについてはB判定です。母親リクルート時に父親への声かけを積極的に行う取組を行いましたが、38.3%にとどまっております。

質問票回収率はAです。回収率の向上のために返送者に対して電話での返送依頼を行う場の取組により、生後6カ月～2歳のいずれにおいても高い回収率を維持しております。

そのほかといたしまして、地域的な課題につながる追加調査の進捗や成果について、積極的

に情報発信することで、エコチル調査全体について地域住民の理解を得ている点が評価できます。

(13)高知ユニットセンターです。

母親リクルートは、当初がS、変更後がA、カバー割合がSとなっております。

当初のリクルート目標数5,000に対しまして、第一次中間評価を受けて7,000人に引き上げております。母子健康手帳発行窓口での保健師からの声かけ、協力医療機関での医師からの声かけ、センター長が全ての協力医療機関を訪問して、参加呼びかけの声かけを依頼するなどの取組を行った結果、最終的なリクルート数は7,094人となり、当初よりも高いリクルート目標数を引き上げたにもかかわらず、目標を達成したことは大変評価ができます。カバー割合も60%と高い水準を達成しております。

父親リクルートについてはB判定です。協力医療機関ヘリサーチコーディネーターを派遣し、父親と面談できる機会を捉え、積極的に声かけを行いました。34.1%にとどまっております。

質問票の回収率はB判定となっております。生後6カ月～1歳、2歳では平均を下回るものの、概ね順調ではありますが、1歳半では、ほかのユニットセンターと比較して低くなっております。質問票の回収率を向上させるような取組を早急に検討し、改善することが望まれます。

そのほかといたしまして、リクルート開始当初から、ほかのユニットセンターとの情報交換を積極的に行い、優良事例の採用や業務改善を実施しております。また、高知ユニットセンターの暫定データを分析し、国内外で発表を行うなど、積極的に成果の公表をしている点は評価ができますが、エコチル調査の本体調査に影響を及ぼさないよう、配慮が必要です。

(14)福岡ユニットセンターです。

母親のリクルートは当初がB、変更後がA、カバー割合はBとなっております。

当初のリクルート目標数8,100人に対しまして、第一次中間評価を受けて、7,600人に下方修正しております。その後、協力医療機関での妊婦への保健指導を1カ所に集めてリクルート活動を行ったことなどにより、最終的なリクルート数は7,691人となっております。カバー割合は46%でございます。

父親のリクルートについてはA判定です。協力医療機関にリサーチコーディネーターを配置し、母親のリクルートや、1カ月健診で積極的な声かけを行った結果、50.1%となっております。

質問票の回収率はB判定です。回収率向上のために返送者に対して返送依頼を行う時期や方法等の検討を行っており、質問票の回収は概ね順調にしております。

そのほかといたしまして、ここはパイロット調査も実施しておりますので、そこで得られた知見を、エコチル調査でも活用していることは評価ができる。今後もパイロット調査の経験をほかのユニットセンターと共有することが期待されるというふうになっております。

(15)南九州・沖縄ユニットセンターです。

母親リクルートは当初がB、変更後がA、カバー割合はAとなっております。

当初のリクルート目標数6,000人に対しまして、第一次中間評価を受けて5,750人に下方修正をしております。最終的なリクルート数は5,847人となり、見直し後の目標数に対しては101.7%となっております。カバー割合は56%となっております。

父親のリクルートがA判定です。母親のリクルート時や出産入院時など、父親と対面できる機会に積極的に父親へ声かけを行った結果、60.6%でした。

質問票の回収率はA判定となっております。回収率向上のために参加者ごとに進捗管理をし、返送者に対して積極的な呼びかけを行うなどの取組を行い、生後6カ月～2歳のいずれにおいてもほかのユニットセンターに比べて高い回収率を維持しております。

そのほかですが、調査対象地域が熊本、宮崎、沖縄の3地域と離れていますが、いずれの地域もリクルート目標達成率、質問票の回収率が高く、3地域がよく連携していることは評価できます。

このユニットセンターは、パイロット調査も実施しておりますので、そこで得られた知見をエコチル調査でも活用しており、評価ができるというふうに書いております。

最後、4.総括ですが、エコチル調査における最終的なリクルート数は、10万3,106名となり、目標数である10万人を到達しております。また、生体試料回収率は90%前後と、非常に高い回収率でございました。

質問票の回収率は90%前後と、非常に高い回収率を維持しており、概ね順調ではありますが、年齢が上がるにつれ、回収率が低下しており、参加者自身が重要な調査に参加しているとの意識は継続して持ち、脱落することなく継続して調査に参加していただくための取組を検討し続けていく必要があるというふうに書いております。

また、平成26年度からは、本格的に10万人のフォローアップ期間に入ったこと、5,000人を対象とする詳細調査が開始されたこと、将来的には小学校の協力を得ることも視野に入れる必要があることから、小児科の関連団体、教育関連団体等との連携体制の強化が望まれる。

また今後とも世界でも最大規模の出生コーホート調査として、研究成果の論文発表、研究成果の国内外への発信、若手研究者の育成、国民の理解度・共感度の向上等を進めていくべきで

あるということも総括で書かれております。以上です。

内山座長 ありがとうございます。ただいま各ユニットセンターの評価とそれから総括をご説明いただきました。何かご質問ありますでしょうか。

中下委員 すみません。前に質問するべきだったかもしれないんですけども、1度、調査の中で、福島県については放射性物質についても調査をするということが決まったというふうにご報告を受けていたんですけども、この点はどのように。まだこれからなんでしょうか、それとも、もう調査が始まっているのでしょうか。

針田室長 福島のほうではリクルートという段階で、そういうところ、県民調査のほうもやられているといったことを前提に、今エコチル調査にも参加していただいているという形になっております。

今後このフォローアップをする中で、何かそちらのほうの研究調査ともコラボしてできるような体制を生かせるのではないかとということで、今データを蓄積しているというところでして、今すぐ何かを取りまとめるといったところではありません。基本的に参加者として参加登録していただいて、今フォローアップをしていただいているという形になります。

若干、福島に関しましては参加者数が多くなっておりますけれども、ほかのところと同様にちゃんとフォローアップしていただいています、フォローアップ率は高いリクルートでフォローアップはできているかなというふうに思っております。以上です。

内山座長 どうぞ。

新田コアセンター長代行 1点補足させていただければと思います。放射線の影響に関しましては、もちろん福島の大きな問題があるわけですが、エコチル調査で、福島だけで何か放射線調査をするということは計画されておられません。全体10万人の中の福島約1万2,000、それから同じく放射線の影響については大きな問題になっておりませんが、宮城の被災地での約9,000人と、この全体の中で10万人の中での比較ということで、何か問題がないかどうか、長期的に見ていくと、そういうスキームでございます。

内山座長 よろしいですか。

遠山委員 特にS・A・B・Cで評点をつけているのですが、これはどこかに反映するのか、ただ一つの目安として、リクルートを100%の目標値に近づけるということで、途中経過を評価する上でS・A・B・Cというのを一つの目安としてつくられてきたということなのか、予算とかその他、これでいろいろ反映しようと、そういう意図があったのか。

要するに、弱いところに投入するということもあるかもしれないし、逆に、よくやっている

ところに投入するということもあるかもしれないし、それはさまざまですが、そういうようなことがあって、していたのか、どうなのでしょう。

針田室長 ある程度まずこういったSとかAとかはつけていなかったんですけども、この委員会でもうすこしデータ化ができないかという発言が、たしかあったやに思っております、非常に評価は難しいんですけども、とりあえず標準偏差を用いてつけさせていただいたということをおもっています。

今後の運用の中で何かそういった反映については、今後考えておりますけれども、今思っているのは、今15のユニットセンターがありますから、どこが見分けることがなかなかわかりづらいだろうと。そういうところである程度客観的な、まさに統計学的なところで出させていただいたというふうに思っています。だから何か目当てという形ではないと思います。

遠山委員 わかりました。それならばいいんですが、特に母親リクルートのところで目標値を最初に少な目だったものを、途中から多くしているところと、その逆のところがあって、結果として達成率が変わってきているので、それによって目標数を増やしたために、達成率が減ってしまっていて、したがって評価が下がっちゃってというところもあるし、その逆もあるので、あまりそのところは重視して何かに反映するとまずいかなと思って質問しました。

内山座長 ありがとうございます。増やしたところ、減らしたところで、かえって負担になっているところもあるけれども、頑張ってくれたところと、増やしたけれども、かえって下がってしまったところといろいろあるので、ここは全体の中でどのぐらいのところがあるのかということをおわかっていただければという、相対評価という意味で今回はやってみたということですので、その点をご了解いただければと思います。

回収率のところでは、だんだん落ちてきているところというのは、傾向としては追加調査が多いユニットかなという傾向もあるので、これは各ユニットに十分考慮していただいて、回収率は保っていただきたいというふうに思います。

遠山委員 付け加えさせていただければ、これだけいろいろ当事者の方々あるいは評価された方々も努力されて、このようなデータが出てきているわけですから、今いろいろ個別のことについて詳しく説明されましたが、とにかく共通的に引き出して、今後のこうしたリクルート活動とかに役立つような教訓というか、それをまとめることができるのであれば、そうしていただけると、公衆衛生活動その他、今後役に立つんじゃないかなというふうに思いました。

内山座長 その点は、まだ中間評価で言えるかそこまでということもあるかもしれないんですが、いかがでしょうか。

遠山委員 一般論です。

内山座長 そこまで書き込むのはちょっと難しい感じもします。

遠山委員 いやいや、決して今すぐ、どうのというんじゃなくて、何か今後の。

内山座長 今後のための評価ですので。

遠山委員 特に何を持っている。

内山座長 比較に使うにしても何かまた今後の課題として、ぜひ皆さんに頭に置いておいていただきたいと思います。よろしくお願いします。そのほかに。

藤村委員 概評のほうに戻ってもよろしいでしょうか。

内山座長 よろしいですよ。

藤村委員 すみません。前のときに意見を述べるべきだったかもしれませんが、6ページです。コアセンターのところで、6ページのところでいって、コアセンターの最後で「人材の育成が必要であることから、次世代を担う研究系職員を早急に配置し、研究者の育成を行うべきである。」非常にもっともな重要なことだと思うんですが、ここはかなり抽象的で、これ以上に具体的なことは触れられていないんですが、こういう研究職を例えば環境省の中でお考えなんでしょうか。

あるいはどこにどういうふう配置すべきだという提案にいつかはなるんでしょうか、サステナビリティというのはよく言われますけど、ここで書かれているのはそれだけですよね。そこのところ具体的なことはどういうふうにお考えなのかというのを、ちょっと伺いたいんですが。

針田室長 私どもの認識としては、企画評価委員会のワーキンググループでこういうふうなご指摘をいただきました。それで今この委員会で諮問された。私どもの方とこれは特段策があるというわけではなくて、もっとこういうふうにしっかり13年後までやるんだぞといったものを、フォローしてやるという、私は先生方からのメッセージというふうな受け止め方をさせていただいております。もう既にこれが比較でできているのかみたいなことかと思われまうけれども、正直そういった順番にはなっておりません。まず先生方からしっかり載せてやるんだぞということを伺っていたと、今後の私どものまた認識でやっておこうというふうに思っているという段階であります。

内山座長 よろしいですか。将来的には具体的な指摘になっていくんだろうと思いますが、この評価書でもこれだけ書き込んでいただけたということだけでも、評価したいと思います。今まではエコチル調査の目的の一つとして若手研究者の育成という、特に疫学関係の研究者は

少ないので、こういうことを機会に、ぜひ若手の研究者にも興味を持っていただき、育てていただきたいということはあったわけですが、正式にこういう評価書の中にはあまり書き込んでいませんでしたので、特に長期の観点で、そういう方を育てていただきたいということを今回は多分抽象的ですけども、書いていただいたということだろうと思います。

遠山委員 今のご指摘非常に大事だと思うんですが、それに関係して、やはり環境省もしくはコアセンターのところで、それぞれがそれぞれの部署で実際に担当している方の年齢とか、次の世代とおっしゃったんですが、次に実際に頑張っていらっしゃる方が、何歳ぐらいにいるのかとかという、人材の、今実際に働いている人がいるわけですから、そのリストとかいろいろな表は、中央のすることで責任をもってある程度目配りをして、そうしておかないと何かの事情でその方がいなくなってしまうときに、続かないというのでは困るので、その辺りは、そうしたからといって別にどうなるものでもないわけですが、何も情報がなくて、ある日突然測定の主要なことを担っている方がいなくなってしまうとなると困るので、ある程度情報というのは持っていらっしゃるのだったらいいですが、つくっておかれたほうがいいと思うんですが、それは公開しなくていいです。

川本コアセンター長 ありがとうございます。エコチルはコアセンターとメディカルサポートセンター、それからユニットセンターという三つの組織がありまして、決して専任だけではなくて、どちらかといいますと教室に所属されている先生がエコチルデータを解析されるものもありまして、そちらで育てていただくということもあります。リストというのもどこまで広げていいかはありますけど、先生のご主旨を十分に理解して、それに時期、世代を考えた対応はさせていただきたいと思っております。

内山座長 ありがとうございます。皆さん危機感といいますか、それが大事だということは非常に認識されているためのいろいろご発言だと思いますので、できる範囲で資料などちょっと集めていただいて、これからの長期的なこういうプロジェクトが成功するためのシステムづくりということの一つのノウハウ、データになっていけば、これまた次のプロジェクトもできると思いますので、これは今後の課題としてよろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほかよろしければ、大体予定の時間になったんですが、よろしいでしょうか。

稲垣委員 すみません、時間がないところで。

そもそものエコチル調査の一番最初の目的が、全国で10万人の子ども及びその両親についてのコーホート調査を実施するということがうたわれておられたということで、今回10万人を超えたということはとても喜ばしいことで、本当によかったなと思っておるんですが、子どもの

登録数は10万人に少し欠けるところがあったという事実と、それからカバー率50%を目標とするということが、一応書かれているということからして、総括のところには子ども的人数を書く云々は別にしても、当初の目標であることは大まかに到達できているというような、それはカバー率でいうと48%ぐらいですけど、中には60%のところもあるし、ばらつきがあるなどは思うんですけども、そういう点も少し書かれていてもいいのかなというふうには思ったところ
です。

内山座長 お子さんの数は10万人をちょっと切るんですか。まだこれは集計中ですか。

新田コアセンター長代行 恐らく10万人には達しないというふうに思います。9万9,500か600ぐらいというふうに見積もっております。

内山座長 ではこの10万人というのは、死産とか早産も含めているので、出産数が10万以上あれば、ある程度の目的は達しているのかと。

新田コアセンター長代行 当初の10万という目標は、10万組の親子リクルートというような表現で、少し厳密な意味で子ども、ライブパスとして10万というような明確な目標であったかどうかというのを、少しいろんなところでいろんな表現をしていたというところがございますけれども、実際にライブパスとして10万には達していないということも事実でございます。

内山座長 カバー率は各ユニットセンターでばらつきはありますけれども、日本の子どもの大体50%弱、40数%カバーしているということで、日本全体としてのデータとして見れば。

新田コアセンター長代行 概ねそうです。ただ評価書にもありますように、カバー率に関しましては今のところかなり推計値で、分母となります出生数が確定しておりませんので、かなりというか、一部誤差を含んでいる可能性もございます。

内山座長 わかりました。今回は各ユニットごとにカバー率が書いてありますので、まだちょっとそこまでは書かないでもいい、評価することはできないかもしれないということによろしいでしょうか。

(はい)

内山座長 そうしましたら、多少の修正はありますけれども、全体としてはご提示いただいた第2次中間評価書(案)として、この委員会としてお認めいただいたということによろしいでしょうか。

(異議なし)

内山座長 ありがとうございます。さらに細かいところは事務局と私のほうで修正させていただくかもしれませんが、概ねこの第2次中間評価書をお認めいただいたということで、この

委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。

それでは最後に議題(3)その他、事務局から何かございますでしょうか。

北島部長が来られているので、ご挨拶をいただきたいと思います。

北島部長 熱心なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日は年度末の大変ご多忙の中をご参集いただきまして、誠にありがとうございます。国会業務がございまして、遅れてまいりましたが、環境保健部では今1本、新しい法律を今国会に提出すべく準備をしております。一昨年の10月に熊本の水俣で開催されました代表会議につきまして、水銀による水俣条約というのが採択されております。この条約を担保するために今、水銀による環境汚染の防止に関する法律という新法を私どもで用意しておりまして、また大気汚染防止法の一部改正とあわせて、国会への提出の準備をしているところでございます。

水銀による被害が、我が国の最大の公害問題でございますので、こういった教訓を生かして世界に対して水銀対策をリードできるように今頑張っているところでございます。

本日は、平成26年度の間接評価についてご議論いただきましたけれども、まだまだ評価手法ですとか、評価方法、いろいろとご指摘いただいたかと思えます。ただ、非常に長期的な事業でございますので、一定の節目節目で評価をいただくということで改善していくことが非常に重要だと考えておりますので、まだまだ改善点がございますけれども、引き続きご指導をお願いしたいと考えております。

長期にわたる大規模なエコチル調査を着実に進めまして、子どもたちが豊かに、すこやかに成長できる環境の実現を図るため、委員の皆様方には引き続き格別のご高配を賜りますよう、お願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

内山座長 それでは時間になりましたので、今日の会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

午後4時06分 閉会